

平成28年4月11日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団
理事長 金岡純二 殿

助成研究成果概要報告書

| | | |
|------------------------------------|------------------|-------|
| 教育機関名：富山大学 | 助成金額：550千円 | |
| 研究代表者：隅敦 | 所属：人間発達科学部発達教育学科 | 職位：教授 |
| 研究題目：新富山県立近代美術館（仮称）所蔵作品の教育活用に資する研究 | | |

【研究概要】

本研究は、新富山県立近代美術館（仮称）として新築移転される富山県立近代美術館の所蔵作品を教育的に活用するための方途について明らかにしようとしたものである。当館は、ピカソ、シャガール、ジャスパー・ジョーンズ、ジャクソン・ポロック等、国際的に評価の高い20世紀以降の美術全体の歴史的展開を概観できるコレクションを有している。また、戦後の日本美術に影響を与えた作家や、椅子やポスターなどデザイン関係のコレクションも充実しており、これらの所蔵作品の教育活用のための研究は、十分期待されるものであると考えた。

申請者は、「富山県と国立大学法人富山大学との連携に関する協定書（H17.11.1）」に基づき、「人間発達科学部連携事業」として継続して実施してきた作品鑑賞のための子供向けワークショップの開催や学部学生に対する講義や教員免許状更新講習の開催等を通じて、富山県民の財産であることを認識しその有効活用の意義を実感してきた。

平成20年学習指導要領の解説の「指導上の留意点」において、小学校では「地域の美術館などの利用や連携に関する事項」が設けられ、中学校では「美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること」と明記してある。

本研究は、当館所蔵作品を鑑賞の対象に限定して取り組んだ点に特徴がある。所蔵作品の常設展示作品を対象にすることで、繰り返して鑑賞でき、美術館を訪問する度にその成長の過程で見方が深まると言うよう

学生を対象にした講義や現職教員を対象にした講習会ではタブレット端末を用いて鑑賞体験を深める試みを実施した。特に新美術館では、常設作品の展示室の近くにワークショップができる部屋も計画されている¹ことから、作品鑑賞と作品制作を結びつけた試みも実施できたことである。

本研究を通して、まず、所蔵作品を活用した当美術館でのモデル授業のあり方、所蔵作品を使用した移転後の美術館でも継続して活用される鑑賞題材の開発ができると考えられる。

【成果要約】

1. 必修講義「図画工作科教育論」を実施して

(1) 講義の概要

本講義は、平成27年5月23日と30日に実施した。当日の日程は以下の通りである。

- 9:45～10:05 講義1 子どもにとっての美術作品との出会い。
- 10:05～10:55 1回目鑑賞 「何をかいているのかな？」
- 10:55～11:15 ホールでの振り返り
- 11:30～11:50 講義2 子どもの作品作りと美術作品の関係性
- 11:50～12:30 2回目鑑賞「筆あと研究所」
- 12:30～13:00 ホールでの振り返り まとめ・レポート執筆

特に作品鑑賞中に、タブレット端末でその様子を記録し、「ホールでの振り返り」の際に互いの話し合いの場面を活用しつつ、鑑賞を深める試みにも取り組んだ。

(2) 分析方法

所蔵作品を活用した模擬授業における意識の変化を質問紙調査で把握した。回答した学生数は、平成27年5月23日33人、5月30日43人名計76人であった。当日行った授業の後半に配布し、回答を求めた授業レポートをそのままテキストデータ化し、集計を行った。

単に割合を求める場合はそのまま行い、自由記述については、テキストマイニングソフトであるIBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0 を用いて、解析データをグラフやWebカテゴリとして視覚化した上で「有効レイアウト」または、「グリッドレイアウト」で分析し考察を行った。

(3) 分析の結果と考察

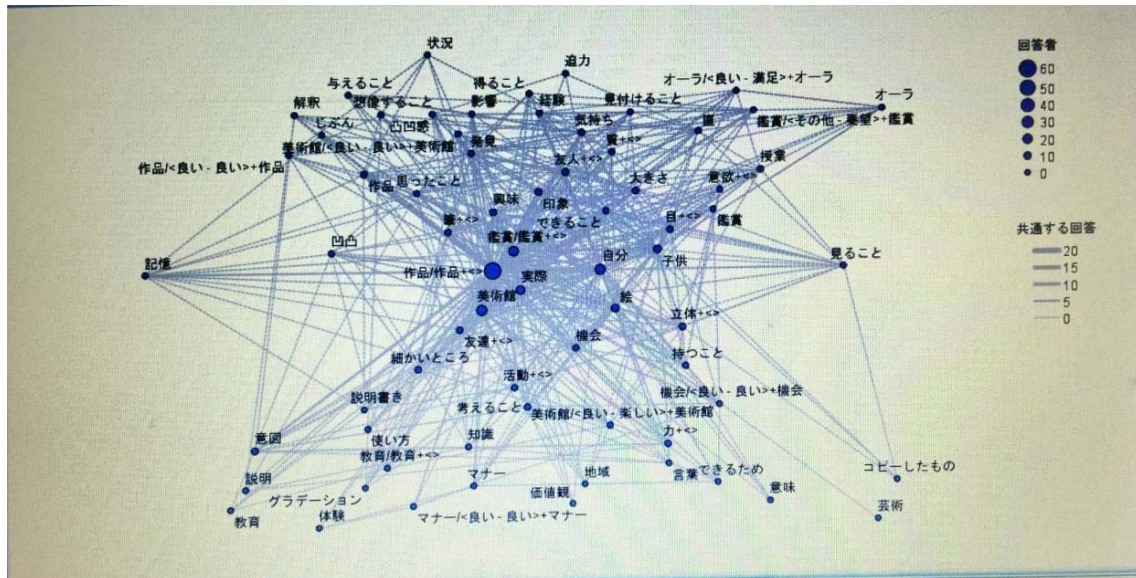
①訪問経験のある美術館について

| 訪問経験のある美術館名 | 人数 | 割合 |
|-------------|----|-------|
| 金沢21世紀美術館 | 36 | 45.0% |
| 富山県立近代美術館 | 7 | 8.8% |
| 高岡市美術館 | 7 | 8.8% |
| 富山県水墨美術館 | 4 | 5.0% |
| 石川県七尾美術館 | 3 | 3.8% |
| 砺波市美術館 | 2 | 2.5% |
| 石川県立美術館 | 1 | 1.3% |
| 福井県立美術館 | 1 | 1.3% |
| 田原市美術館 | 1 | 1.3% |
| 新川文化ホール | 1 | 1.3% |
| 富弘美術館 | 1 | 1.3% |
| 東京国立博物館 | 1 | 1.3% |
| 立山カルデラ博物館 | 1 | 1.3% |
| 富弘美術館 | 1 | 1.3% |
| その他 | 3 | 3.8% |
| 経験なし | 10 | 12.5% |
| 合計 | 80 | 100% |

複数回答も認めて総回答数は80人であり、訪問した美術館を多い順に記載すると、「金沢21世紀美術館」36人(45.0%)、「富山県立近代美術館」7人(8.8%)、「高岡市美術館」7人(8.8%)、「富山県水墨美術館」4人(5.0%)、「石川県七尾美術館」3人(3.8%)、「砺波市美術館」2人(2.5%)と続く。大学に入るまで1回も美術館に行った経験のないという回答が10人(12.5%)存在した。

ついて「雰囲気」を作っているという肯定的な用語が集まっている。総じて、この美術館の雰囲気をよいものであると受け取っていることが分かる。

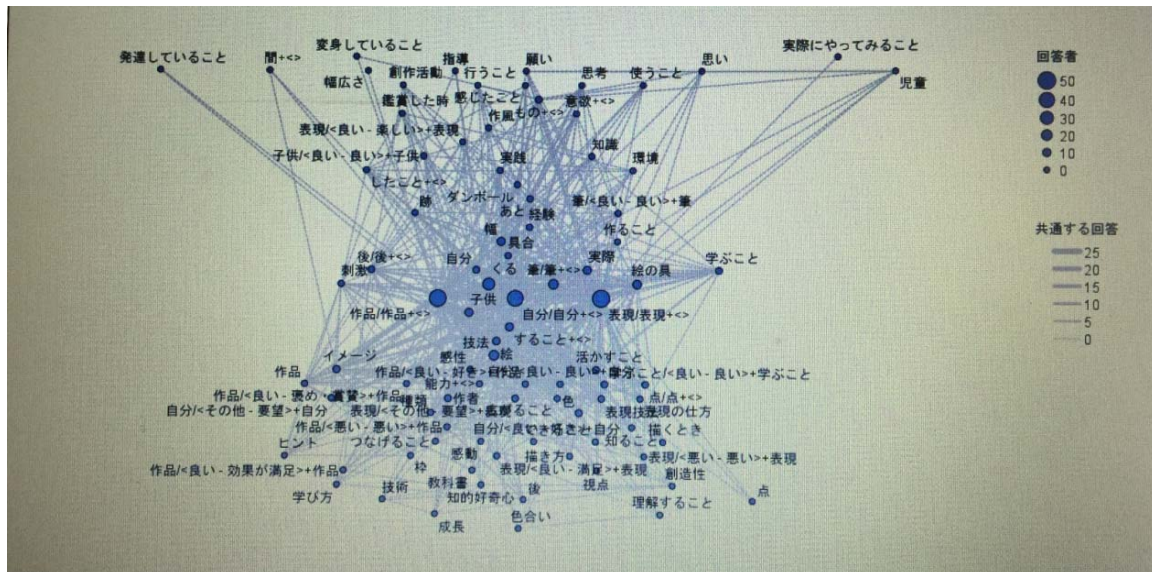
講義内で行った模擬授業、小学校高学年の小学校5年生対象の「何をかいているのかな」では、上位から「作品」が58人で76.3%、「美術館」が25人で32.9%、「自分」が24人で31.6%、「鑑賞」が22人で28.9%、「実際」が17人で22.4%と続く。このデータをカテゴリ Web の有効レイアウトで視覚化すると、以下の通りになり、作品について肯定的に向



き合おうとする用語が中心に集まっていることが分かる。

小学校6年生の対象の「筆あと研究所」の題材を取り上げた場合では、上位から「表現」が50人で65.8%、「作品」が43人で63.2%、「自分」が44人で57.9%、「くる」が27人で35.5%、「筆」が17人で22.4%、「技法」も17人で22.4%、「絵の具」が13人で17.1%と続く。次に、このデータをカテゴリ Web の有効レイアウトで視覚化すると、中心に「表現」、「作品」、「自分」のワードの周辺に肯定的な用語が集まっている。

実際に本物の作品の筆跡を見ることで、「作者の気持ちを、そこで読み取ることができる」など、液晶画面やスクリーンに投影された画像や印刷された画像では捉えることのできな



い作品の様子を眼前にすることは、鑑賞を深める上で非常に有効になっていると捉えることができる。

2. 教員免許状更新講習「美術館常設展示作品を図画工作科の鑑賞教育に生かすために」の実施を通して

(1) 教員免許状更新講習の概要

本講習は平成27年8月6日に実施した。内容は、以下の通りであり、実際に講義と鑑賞、受講生同士の話し合いを繰り返すというものであった。

1限 (9:00-10:30)

図画工作科の鑑賞の指導に関わる諸問題について(講義)
美術館活用のメリットについて(講義)

2限 (10:45-12:15)

作品鑑賞を充実させるための指導とその評価について(講義と実技)
・常設展示作品を活用した題材の開発

3限 (13:15-14:45)

作品鑑賞から表現へつなげる題材の指導と評価について(講義と実技)
・事例紹介と所蔵作品の鑑賞後の表現をつないでいく題材の開発

4限 (15:00-16:00)

試験 (16:00-16:30)

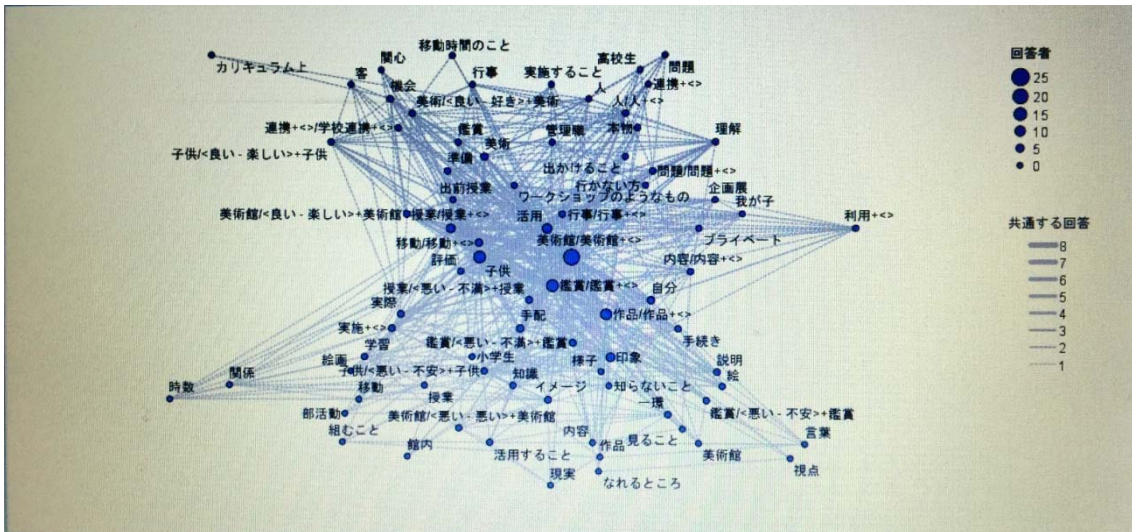
(2) 分析方法

調査は、平成27年8月6日、当日の受講生31名に対して実施した。質問紙による講習前と講習後の印象の自由記述をテキスト化し、IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0で分析を行った。解析データをグラフやWebカテゴリとして視覚化した上で「有効レイアウト」または、「グリッドレイアウト」で分析し考察を行った。

(3) 分析の結果と考察

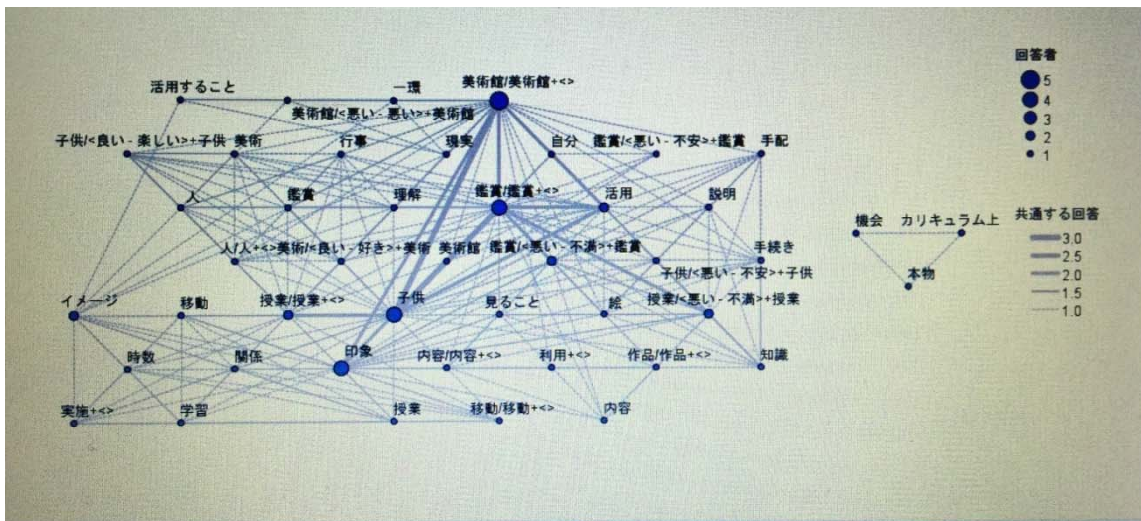
①講習会参加前の意識

「美術館」が23回で76.7%、「鑑賞」が14回で46.7%、「子供」も14回で46.7%、「作品」が12回で40.0%、「活用」が9回で30.0%、「授業」が8回で26.7%と続く。次にカテゴリWebで視覚化したグラフ(有効レイアウト)で見ると、中央にそれらの用語が集まり、ネガティブな受け止め方の用語と結びついていることが分かる。



講習会参加前の意識として、「難しい」という形容詞は、係り受け解析の結果、8回出現しているが、そのどれもが「鑑賞の授業は難しい」「授業数も少なく難しい」「低学年の子には難しく」「高尚なイメージがあり、子供達には難しい」というように、肯定的な表現に結びついている。また、「難しい」をカテゴリ Web で視覚化したグラフ（グリッドレイアウト）で見ると、中央に否定的な用語が集中している。

また、「本物」「機会」「カリキュラム上」という3つの用語が、全く別の Web を形成しており、この自由記述を探すと、「非常に興味を持っている。本物と触れる機会はつくって行きたいと思うが、カリキュラム上難しいと思っている」という記述があった。



②講習会参加後の意識

「美術館」が20回で64.5%、「鑑賞」が17回で54.8%、「作品」が15回で48.4%、「子供」が14回で45.2%、「授業」が11回で35.5%と続く。次にカテゴリ Web で視覚化したグラフ（有効レイアウト）で見ると、中央にそれらの用語が集まり、肯定的な受け止め方の用語と結びついていることが分かる。

内容や当日のスタッフに対する指導も行いつつ保護者の対応を見計らってインタビューすることが多く、毎回のインタビュー人数を一定にすることができなかった。

基本的には、「企画を知った理由」「学校等で行われる表現や図画工作、美術の授業と比べてどのように感じたか」を中心に、6月から1月の計8回の企画で78人の保護者から回答を得た。記録した音声を自由記述としてテキスト化したデータを用いて、IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0 で分析を行った。その解析データをグラフやWebカテゴリとして視覚化した上で「有効レイアウト」または、「グリッドレイアウト」で分析し考察を行った。

(3) 分析の結果と考察

①企画を知った理由について

カテゴリ Web で視覚化したグラフ（有効レイアウト）で見ると、中央にそれらの用語が集まり、肯定的な受け止め方の用語と結びついていることが分かる。

出現回数の多い用語は、「チラシ」が38回で60.3%、「科学博物館」が8回で12.7%、「子供」が7回11.1%、「入り口」が7回11.1%である。「ポスター展」が6回で9.5%である。まず、「美術館」が3回で4.8%、「Webサイト」が3回で4.8%であった。

「チラシ」は、このワークショップ専用の1年分の開催予告を記入したものと、夏休みや冬休みの他の企画と合わせて富山県立近代美術館で制作した県のパンフレットなども含まれており、どれが具体的に効果的であったかは、判別しがたいところもあるので、この記述のあるテキストを再度検証すると、専用のオリジナルのチラシと判断できるものが11回あり、他が富山県立近代美術館作成のものであった。

オリジナルのチラシは、市内では附属幼稚園、附属小学校や校区内の1公立小学校のみに全校児童分配布している。

「科学博物館」は、当美術館に隣接して「富山市科学博物館」が立地しており、本来の目的は科学博物館の催し物であったが、「入り口」で本企画を運営する学生に勧誘されてきた家族が7回あった。あとの一人は、何となくついでいうことであった。いずれも本来の目的である科学博物館だとしても、こちらに来て見てもおもしろかったということ述べていた。

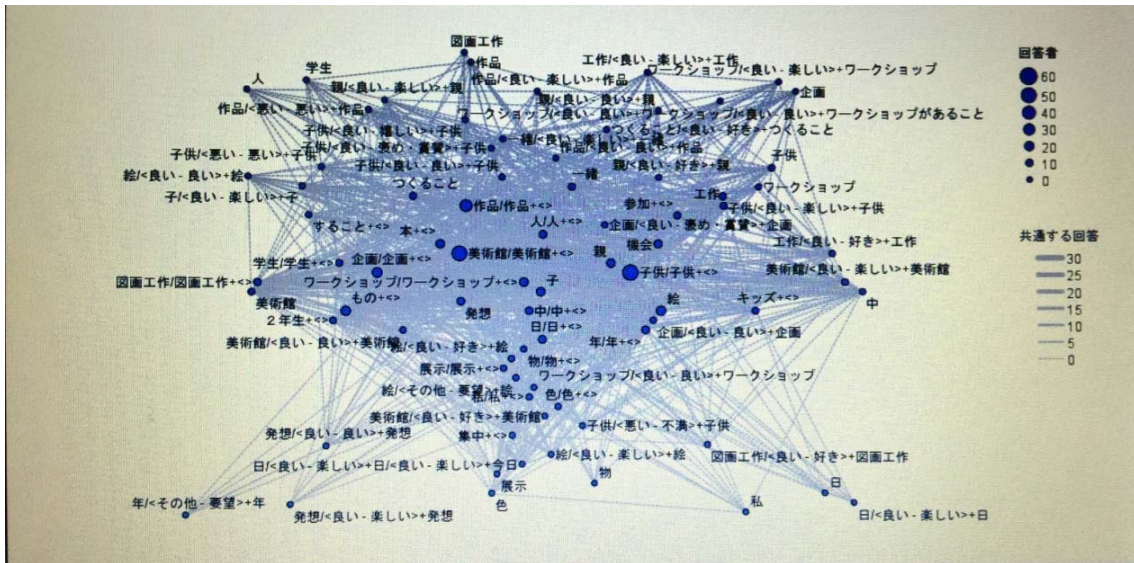
本企画は、富山県立近代美術館のWebページからも閲覧できるが、このページを見て来館された家族は3グループに過ぎない。

次にWebカテゴリで判断しても、チラシを中心にしたサークルと、科学博物館と入り口をつないだサークルの二つに分かれた。従って、イベントの告知では、手渡しでのチラシ配布が以前成果を上げていることが分かる。

②学校の授業と比べた際のこの企画の意義

「子供」が53回で70.7%、「美術館」が52回で69.3%、「作品」が34回で45.3%、「企画」が23回で30.7%、「絵」が21回で28.0%、「もの+〈〉」が20回で26.7%、「ワークショップ」が17回で22.7%、「親」が16回で21.3%と続く。Webカテゴリの有効レイアウトで分析すると、特に「子供」と「美術館」と「作品」の結びつきが非常に近いこと分かり、「ワークショップ」と「親」もその結びつきの強さを確認することができる。ワーク

ショップがあるから子供を参加させて、作品鑑賞が親もできるなど、きっかけとして子供のためのワークショップの存在意義を確認できる。



カテゴリには挙がってこないが、13回の出現回数のある「自由」の用語を中心にして分析を行うと、この用語との結びつきの強い用語が「子供」が11回で84.6%、「美術館」が7回で53.8%、「企画」が6回で46.2%、「作品」6回で46.2%である。これは、学校で行われる授業に比べて、美術館のワークショップの企画が「自由」であることに親が気づいている証拠であり、作品鑑賞に連動して制作を行うことが、有効であると認識していることが分かる。

4. 分析結果から考えられる美術館の常設展示作品を教育活動に向けての活用を行うための方途

(1) 美術館にある本物の作品との出会いをいかにつくるか

いくら所蔵作品が優れていても、美術館に行っても、それらを目の当たりにしなければ、この企画は始まらない。石川県出身の学生が、開館したばかりの金沢21世紀美術館に行った経験があるのは、無料券で招待されたからという理由がある。休日や夏休みに行くワークショップの案内は、依然として学校に配布するチラシが効果的であることも分かった。また、同じ敷地内に隣接する富山市科学博物館の来訪者が、そのまま、学生スタッフの勧誘で参加した事例があるように、きっかけを与えることで、美術館に訪れる機会が生じることが分かった。さらに、大学の講義として土曜日の半日を使って、美術館で講義を行うことで、必然的に本物の作品に触れる機会を設けることができる。さらに、教員免許状更新講習の会場を美術館内の椅子や机のある研修室に設定することで、そのまま常設展示作品を鑑賞することができる。

(2) 美術館における作品鑑賞の内容の工夫

今回の実践では、学生や現職教員向けの内容として、共通しているのは、小学校の図画工作科の教科書に合わせて、鑑賞を行う手法を取り入れてきたことである。

それは、美術作品を前に自由に自分の思ったことを話し合うということだった。特にタイトルや説明を気にせず、作品がどんなことを意味しているのか、口に出して始めさせた。ほとんどの参加者は、作品の作家のことや内容について、知らなければ鑑賞をしてはいけないという先入観があった。そこで、「何をかいているのかな」では、自由にタイトルをつけあってその理由を説明させ、作者の気持ちを勝手に想像して話し合うことを奨励したことで、かなり、作品を見ることに抵抗感がなくなったようである。

美術館における講義と更新講習会では、それぞれの振り返りの際に今回の助成金で購入したタブレット端末を iPad mini を各グループに1台貸与して行った。しかし、WEBカテゴリの分析では特に、この機器の活用に触れているデータを見いだすことはできなかった。

ただし、更新講習参加した受講者の内、6名が「特に印象に残ったこと」という別のアンケートで次のような回答を記述していた。

「iPad・・・とてもよいです。ぜひ活用してみたいです。(小規模校で。大規模校では難しいと思います)」

「グループで作品鑑賞をした際に高校の芸術の先生、支援学校の先生など、いろいろな人と話す中で、表現方法や制作への思いなどを考えることができた。ライブで記録すると、おもしろさがまりました。先生に『いいね。そういうことだよ』などと認められ、褒められたことがうれしく達成感を味わえました。こんな体験を子供たちにも味わわせたく、鑑賞を(出前授業で)やると決めました」

「タブレット端末を使った鑑賞活動は、子供たちの鑑賞のありのままの姿を記録することができ、とてもよいと感じた。ワークシートで書く活動だと、文章の巧拙で左右され、子供の評価がしにくい。生き生きと話す活動は、一部分の子供しか把握できないのが悩みの種だった。今後、取り入れてみたいと思う」

「タブレットを使って、作品鑑賞した様子を撮影し、それをもとにグループで話し合ったり、みんなの前で発表したことがとても印象的だったし、楽しかった。美術館に対する印象も変わりました」

「タブレット端末を使った鑑賞活動は、子供たちの鑑賞のありのままの姿を記録することができ、とてもよいと感じた。ワークシートで書く活動だと、文章の巧拙で左右され、子供の評価がしにくい。生き生きと話す活動は、一部分の子供しか把握できないのが悩みの種だった。今後取り入れてみたいと思う」

したがって、鑑賞中や話し合いの際に十分に活用している様子は一部で確認できたが、他の受講生については、自由な話し合いができる雰囲気ということに、着目していたようだった。

おわりに

今回のこの研究を通して、新潟県立近代美術館(仮称)所蔵作品の教育活用のために必要な事項を把握することができた。本年度以降も、タブレット端末を活用しながら、継続して研究を行いたいと考えている。

¹ 新しい美術館には2つの「アトリエ」を新設！★「ラボ」(仮称)：大型シンク，丈夫な工作机を常備（作家等を指導者とする本格的な創作活動が可能）★「スクエア」(仮称)：多目的スペースで，雨天時のランチルームとしても使用可能（簡単な工作のほか，展示室での鑑賞と組み合わせたワークショップ等を行う予定），「平成28年度 富山県立近代美術館学校教育との連携プログラム」，富山県立近代美術館教育企画展「BANG・BANG!みよう×つくろう2016」第3回実行委員会資料，2016年2月19日

² 蓑豊「美術館が街を変える」2008年度物学研究会レポート，p.4

http://www.k-system.net/butsugaku/pdf/128_report.pdf#search='蓑豊+第8回物学研究会レポート'2016年4月15日取得

³ 同 p.6

(別添資料)

| | | | |
|--------------|---|---------|----|
| 研究成果 発表状況 | 【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】 発表については、第55回大学美術教育学会北海道大会(9月)において行う予定。 論文は、本年度、人間発科学部紀要または、美術科教育学会誌に投稿予定である。 | | |
| 経費の 執行状況 | 区分 | 執行額 (円) | 備考 |
| | 物品費 タブレット端末 (iPad mini) 14台 | 450,576 | |
| | タブレット端末収納キャビネット 1台 | 65,800 | |
| | タブレット端末キャリアバック 2個 | 9,224 | |
| | 音声記録テキスト化 | 24,400 | |